

リアス式海岸の秘密

5101 S

1, テーマ設定の理由

私の住む気仙沼市の階上は、リアス式海岸の中にあります。

リアス式海岸の気仙沼は魚がたくさん採れる場所です。

父は、漁師をしています。父はいつもリアス式海岸の近くで魚を採ってます。そこで、「なぜ、リアス式海岸の近くは、良い漁場なのか」調べてみたいと思いました。また、「どうしてリアス式海岸と呼ばれているのか」も知りたいと思いました。

気仙沼には、『リアス』と名前が付く物が、いくつかあります。それも気になりました。

以上のことから、「なぜ、リアス式海岸の近くは、良い漁場なのか」「どうして、リアス式海岸と呼ばれているか」をテーマに設定にしました。

2, 研究内容

(1) リアス式海岸の名前の理由と名前のつくもの

リアス式海岸の「リアス」は、スペイン語の「リア」で、潮入り川（川が入っている湾のこと）のことだそうです。

「ス」は、「複数のS」です。リアス式海岸は、川がけずった谷に海の水が、入ってできた海岸だそうです。

(「漁師さんの森づくり森は海の恋人」 畠山重篤著より)

気仙沼には、「リアス」が、つくものが、いくつかあります。

1 つ目は、「リアス・アーク・ミュージアム」。ここは、気仙沼にある美術館です。

2 つ目は、「リアス交通タクシー」です。

3 つ目は、「リアスの風」これは、新聞です。この新聞は、気仙沼から志津川や歌津まで刊行されています。

(2) リアスと人

気仙沼は、世界三大漁場の一つです。豊かな海の近くに森があるから人が住みやすいのです。森の木の実も、海の家産物も収集しやすいからです。

食料をとるのに、時間がかかりません。リアス式海岸があるおかげで、魚も木の実も、私達の食たくに並ぶのです。

(3) 魚が集まる理由

魚はプランクトンを食べます。プランクトンは、森から運ばれて来た養分で育ちます。川は森の養分を海まで運ぶ役割をしています。

プランクトンには、植物プランクトンと動物プランクトンの二つがあり、



小さいので目に見えない物です。動物プランクトンは、植物プランクトンを食べます。

森から流れてくる川が運んでくる養分が、海を豊かにしてくれます。

これは、リアス式海岸の一部です。

(4) プランクトンとは？

プランクトンには、二つの種類があります。一つは、植物プランクトンで、二つ目は、動物プランクトンです。プランクトンは、人の目には見えません。プランクトンの養分は、山から海へ流れます。植物プランクトンは、太陽の光で、光合成して生長します。動物プランクトンは、植物プランクトンを食べます。

(5) リアス式海岸のある場所

【外国】

- ・スペイン（ガルシア地方）
- ・イギリス（イングランドの南部）
- ・フランス（ブルターニュ半島）
- ・アメリカ
- ・ベトナム
- ・トルコ
- ・オーストラリア（シドニー）
- ・韓国にあります。

【国内】

- ・千葉
- ・和歌山
- ・福井
- ・長崎
- ・愛媛と大分の間
- ・宮城と岩手間にあります。

これから、外国と国内を一部をすこしお見せします。

(外国)



←これは、イギリスのイングランドの南部の図です。

これは、フランスのブルターニュ半島の図です。→





←これは、スペインの ガルシア地方の図です。



←これは、宮城の図です。

3, 今後の課題

リアス式海岸は、海のそばに山が近づき平野がせまい地形です。それで、津波の時などには、入り江に波が集まって被害が大きくなるそうです。リアス式海岸の三陸沿岸で暮らす私たちにとって、気を付けていかなければいけないことには、どんなことがあるのか。調べた見ることにしました。

①災害の呼びかけをする

- (1) 家族で津波のことを話す
- (2) 本に残す
- (3) 石に刻んで伝える (石碑)

家族や地域でも減災の意識を強めることが必要だと思いました。

②豊かな自然を残す

- (1) 町をよごさない
- (2) 魚を採りすぎない
- (3) 森を大切にする。
- (4) 自然の大切さを伝える

持続可能な気仙沼の資源を意識し、今生きている自分たちと未来の気仙沼で生きる私たちの子孫のことを考えた生活態度・意識が重要だと思いました。

4, 感想

私は、これまで「リアス式海岸」を外国の海の名前だと思っていました。

しかし、この「リアス式海岸」は、川が、入っている湾が、たくさん続いている地形のことだと分かりました。自分たちの住む町では、たくさんの魚や貝が、水あげされます。それも、こうした地形と関係があるのだとおもいました。私たちの地域は、自然豊かな場所ですが津波が来ることもあります。未来に津波が起こるようなことあれば、私たちの経験を生かして命を守っていけるように、私たちは伝えなければならないと思いました。

一方、津波の時などには、入り江に波が集まって、被害が大きくなることも知りました。しかし、地球規模でみると「台風や津波の後には、海が豊かになる。」のだそうです。台風や津波は人間にとっては災害ですが、地球的には必要なことなのかと複雑な思いでした。

今回の学習では唐桑町舞根にある NPO 法人「森は海の恋人」の畠山信さんと白幡美晴さんにお話をうかがい、たくさん知ることができました。